

第5 再整備計画

第5 再整備計画

基本方針① 緑や花と風景の再生による、新たな魅力の創出

1 四季折々の草花による花修景

(1) さくらの再生

千秋公園のさくらは、明治25（1892）年「有終会」の寄附によって植えられた1,170本に由来し、そのほとんどがソメイヨシノです。その寿命は60年とも言われ、長い年月の経過により、当初植栽されたさくらをはじめとして、衰退が顕著となっています。これまで、施肥を中心とした土壌改良や樹木修復等により樹勢回復に努めてきましたが、明らかな成果が見えない状況であり、既存のさくらを残す手法では限界となっています。

このことから、さくらの名所として後世に引き継ぐため、さくらの植え替えなど将来を見据えた再生の取組を推進します。

ア さくらの更新

「千秋公園さくら再生基本計画」（平成22年度）に基づき更新するものとし、更新対象樹木は、花芽の数等による評価、衰退状況および景観構成を踏まえ総合的に判断し選定します。

更新は、いや地現象*を考慮し、前年度に伐採抜根と土の入替えを行い、翌年に新たな樹木を植栽する更新サイクルを確立し、年間30本を目標にさくらの更新を行います。これにより、6、7年後には、400本近くある衰退木の約半数が更新され、本丸や市民広場を中心にさくらの再生を図ります。

新たに植えるさくらは、ソメイヨシノに限らず、寿命が長く、開花時期が異なるヤマザクラやシダレザクラとするなど、長期的にさくらを楽しめる工夫を行います。

また、樹高の高い更新木の調達には、価格だけでなく、調達自体も困難であることから、園内の一角に、あらかじめさくらを植樹しておき、計画的に更新することも検討します。

イ さくら再生重点エリアの設定

公園全体のさくらを短期間で更新等するのは難しく、さくら再生事業の効果もわかりづらいことから、景観的に効果的で、公園利用者の目にとまりやすい、千秋公園を代表するさくらのエリアを「さくら再生重点エリア」として設定し、看板等による周

*同じ植物や近い仲間の植物を連続して同じところに栽培すると、生育が悪くなる現象。

知により、市民の皆様の理解を得ながら、老木の更新、施肥の強化および支障木の撤去を重点的に実施します。

さくら再生重点エリアは、次の2箇所とします。

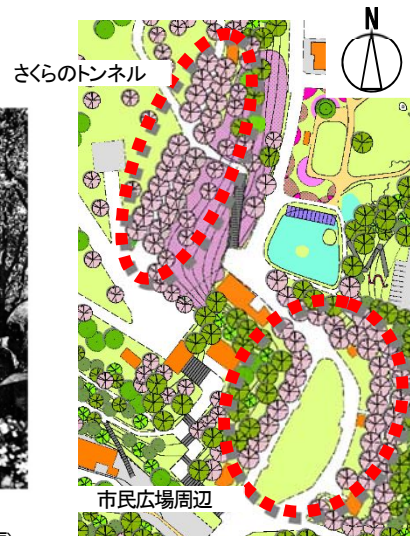
- ・本丸さくらのトンネル（御白州跡から香雲亭）
- ・市民広場周辺



さくらのトンネル



本丸のお花見風景
出典:写真集秋田(今村義孝編)



ウ ワークショップの開催とさくらサポーターの育成

さくらの再生に関する取組の理解と周知を目的として、施肥体験等のワークショップを実施します。また、ワークショップの開催により、さくらに関心を持ち、保全の知識を持つ人を増やすことで、ひこばえの除去など日常管理を手助けしてもらえるボランティア（さくらサポーター）を育成し、市民協働による継続的な管理ができる仕組みの構築を図ります。

エ さくら再生検討組織（トラスト）の常設

さくらの状況は一刻一刻と変化しており、さくら再生整備の検討は一過性のものに止まらず、有識者を含めた検討組織を常設し、さくらの変化に対応した再生整備ができる体制を構築します。

オ シンボルツリーの設定とPR

明治25（1892）年に有終会の寄附により植えられたといわれる久保田城御隅櫓の北側にある「初代のさくら」などをシンボルツリーとして設定し、新たな回遊拠点として案内板等によりPRを図ります。

併せて、将来のシンボルツリー候補の植樹を市民広場など、公園利用者の目にとまりやすい場所で検討します。

(2) ハスの適正管理

- ハスの良好な生育のため、草や藻の除去、繁茂した株の除去、花たぐの刈取りなど適正な管理を継続します。
- 水質や生態系と景観とのバランスに配慮した、ハスの育成を図ります。



大手門の堀のハス



満開のハス



花たぐの刈取り作業の様子

(3) つつじ、藤の育成・拡大

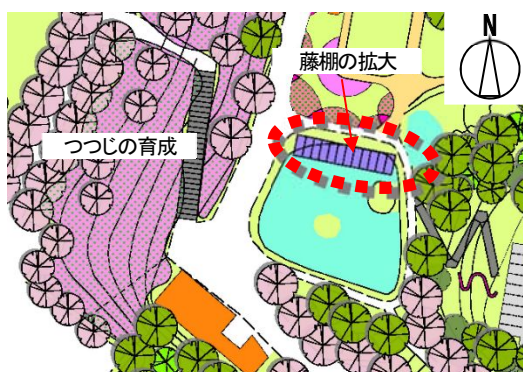
- 千秋公園の代表的な花の一つである、つつじの育成・管理を継続します。
- かつてのように胡月池の藤棚を拡大します。



明治期の胡月池の藤



胡月池



◆胡月池の藤棚の拡大
かつての藤棚のように胡月池の藤棚を拡大します。

(4) その他の草花による演出（胡月池北側など）

- 胡月池北側部分に、児童遊園地からジャーマンアイリスを移植するなど、草花が楽しめる花壇を整備します。
- アヤメやコウホネなど園内の各所で咲く草花の育成・管理をします。



ジャーマンアイリス



あやめ園



- ◆胡月池北側 花壇
馬場のモミ（保存樹）の周辺に花壇を整備し、新たな魅力を創出します。

2 眺望景観や開放的な空間の確保

(1) 景観眺望点（フォトスポット）の整備

- 優れた景観が望める場所を景観眺望点（フォトスポット）として、場所の明示や案内板を設置し、支障木のせん定などの整備を行います。



秋田市街の眺望



既存フォトスポット(表門裏)



- ◆景観眺望点（フォトスポット）の整備

(2) 景観阻害要因の改善と開放的な空間の確保

- 表門を見た際の視線阻害となる樹木をせん定します。
- 本丸広場の衰退木、久保田城御隅櫓への視線阻害となる樹木を伐採・せん定します。
- 久保田城御隅櫓、御出し書院およびあやめ茶屋付近からの眺望阻害となる樹木を伐採・せん定します。
- 巨木等の景観樹木については保全し、景観阻害となる場合のみ、樹形や樹勢を損ねない最低限のせん定にとどめます。



売店裏の樹木



あやめ園南側 四阿



3 堀の保全、水質浄化

(1) 内堀、黒門の堀の水質浄化

- 内堀や黒門の堀について、堆積物の除去や外堀等からの導水量を増やすことなどにより水質の改善を図ります。



内堀



黒門の堀

(2) 堀の保全と適切な維持管理

- 現在行っている水質浄化対策を継続し、水質の保全を図ります。
- 外堀（穴門の堀、大手門の堀）を保全し、定期的な清掃や水質調査等の適切な維持管理をします。
- 内堀・黒門の堀を保全し、定期的な清掃や水質調査等の適切な維持管理をします。

4 自然フィールドミュージアム

千秋公園の西側の斜面緑地は、市街地に残る貴重な自然環境となっており、その中に整備された散策路は、自然散策路やジョギングコースとして市民に親しまれています。

しかしながら、人が自然と親しみ、憩いや休息する空間として十分に整備されていないことから、斜面緑地の豊かな自然環境を保全するとともに、自然に親しむ「自然フィールドミュージアム」として再整備を推進します。

(1) 拠点および回遊ポイントの整備

- 自然ゾーンでは、鐘楼の改修と併せて公園管理事務所移転後の跡地を休憩施設（ベンチ、トイレ）の整備により、松下門跡や市民広場からの公園利用者の利用拠点として整備します。
- 千秋公園で観られる花としては、さくら、つつじ、ハスなどが有名ですが、それ以外にもアヤマメ、コウホネ、ナニワズ、メタセコイアなどの草花や巨木、千秋公園八景（勝平得之による版画作品）の視点場やシンボルツリーなど、自然ゾーンの見所を回るモデルルートの設定、回遊ポイントの整備を行います。



あやめ茶屋



現 公園管理事務所



(2) 自然解説板、案内板の整備

- 自然ゾーンの魅力を公園利用者に伝えるため、都市の中に残る貴重な二次林や植生の解説、珍しい草花や巨木の解説など、自然解説板を整備します。また、鐘楼付近とあやめ園に、自然ゾーンの見ごろマップやモデルルートなどを示した案内板を新たに整備し、回遊性を高める工夫を行います。

(3) 樹林地適正管理と植生回復

- 公園利用者の安全性に配慮し、斜面沿いの枯損木や衰退木は、適宜伐採を行うとともに、林床に生育する珍しい草花の生長を阻害するようなササ類が繁茂する場合には、樹林地内の開放的な空間の確保と併せて、定期的の下草刈りを実施します。なお、隣接する住宅地などにも配慮（落葉の清掃などの市民負担の低減）した開放的な空間の確保を図ります。

5 貴重な動植物の保護および管理

(1) 継続的な自然環境調査の実施

- 貴重な動植物・植生等の自然環境調査を実施します。
- 継続的な調査により、自然環境の変化を把握し、保護・保全対策に活用します。

(2) 貴重な動植物の保護、生息・生育環境の保全（外来生物対策含む。）

- 千秋公園に生息する貴重な動植物を保護するため、生息・生育環境を保全します。
- 新たな公園整備の際には、生息・生育環境に配慮した整備とします。
- 市民へ情報提供を行い、貴重な動植物の保護に関心をもってもらうとともに、現在の動植物の生育に大きな影響を与える外来生物が進入しないよう、注意喚起を促します。

基本方針② 歴史的遺構の保全と継承、さらなる活用

1 城跡の地形保全（土塁、縄張り等の保全・管理）

(1) 樹木の伐採・管理（地形保全対策）

- 丘陵地形を活かした城跡としての特徴的な土塁、縄張り等を保全するため、根系が地上部に露出して土砂流出の要因となっている樹木を伐採します。



大坂の土塁

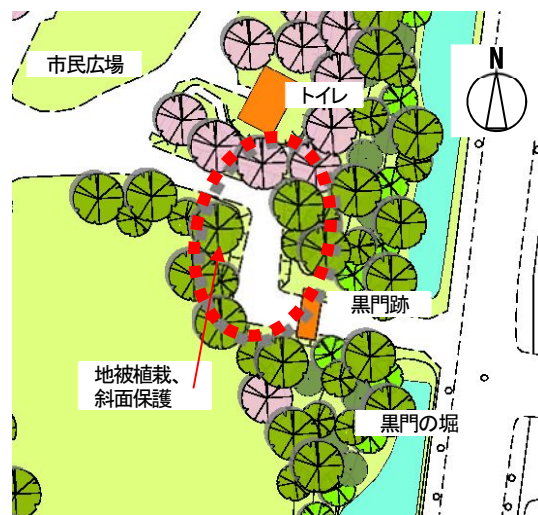


(2) 土砂流出抑制植栽、斜面保護

- 土塁の表土の流出が懸念される箇所へ、植物の良好な生育のための緑化基盤材および地被植栽を行い、土砂流出の抑制を図ります。



黒門跡付近の土塁



2 歴史的建造物の整備

◆大坂周辺整備

(1) 松下門跡の解説板設置 (※復元は行わない)

- 大坂にかつて位置していた松下門の歴史調査結果を記述した解説板を設置します。

(2) 歴史性を演出する施設の整備

- 久保田城への登城ルートの一つである中土橋通りと大坂の境に、歴史を演出する門をイメージした施設を整備します。

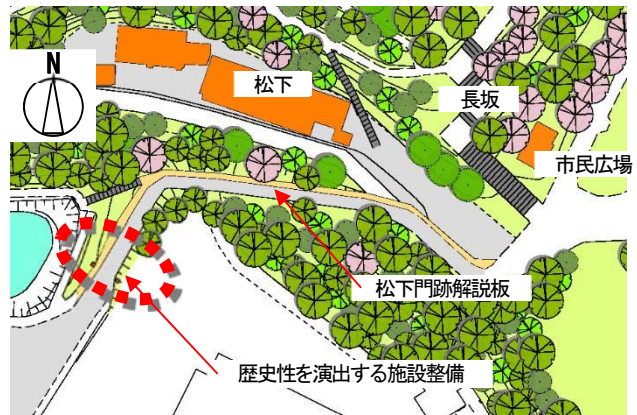


大坂の入口付近(明治末期)

出典:写真集秋田(今村義孝編)



門(冠木門(かぶきもん))のイメージ



◆本丸の再整備

(3) 御出し書院の平面表示による復元

- 本丸南西隅の高台に建てられていた御出し書院からの眺望は優れ、天守の代わりをしたといわれています。歴史的資料をもとに、部屋割りなどがわかるよう建物の平面表示による復元をします。



明治初年の穴門橋と御出し書院



◆黒門周辺整備

(4) 黒門の整備

- 歴史調査をもとに、現在、礎石がある位置に黒門を整備します。

(5) 唐金橋跡整備（※復元は行わない）

- 唐金橋は正確な資料が存在しないため、土橋のまま高欄を模した防護柵を整備し、かつての正式な登城ルートとして、大手門通りから視認しやすいデザインとします。

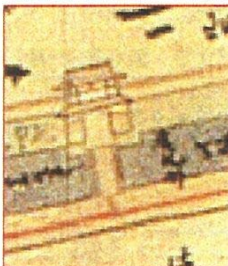


黒門跡



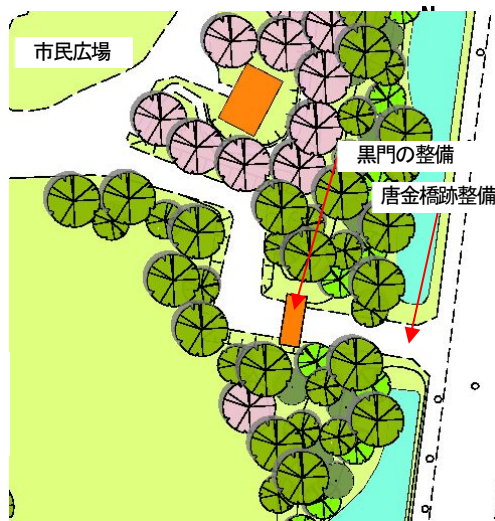
唐金橋跡付近

【黒門・唐金橋 拡大】



出羽国秋田郡久保田城画図
正保年間
(国立公文書館内閣文庫蔵)

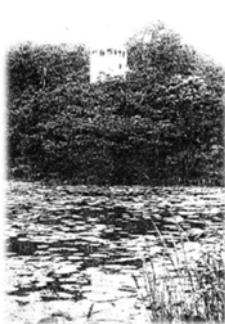
出典:「黒門・唐金橋」
再建懇談会報告書



3 歴史的景観要素（鐘楼・茶室等）の改修・整備

(1) 鐘楼の改修

- 老朽化した鐘楼を公園のシンボルの一つとして改修します。
- 歴史的景観に配慮したデザインとします。
- 鐘楼は周囲から視認でき、景観の添景となる箇所に配置します。



時鐘

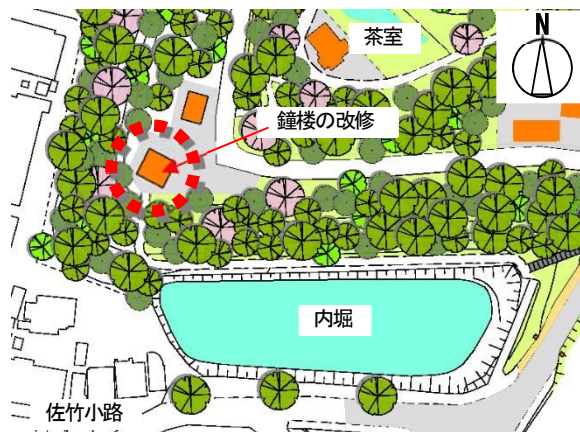
出典:写真集秋田
(今村義孝編)



鐘楼



改修イメージ
沼田城
(沼田市ホームページ
より引用)



(2) 茶室（宣庵）の改修

- 茶室等の老朽化が進んでいる建築物を改修します。
- 茶室や手水鉢の由来等を記述した解説板を整備します。



茶室「宣庵」



手水鉢



待合

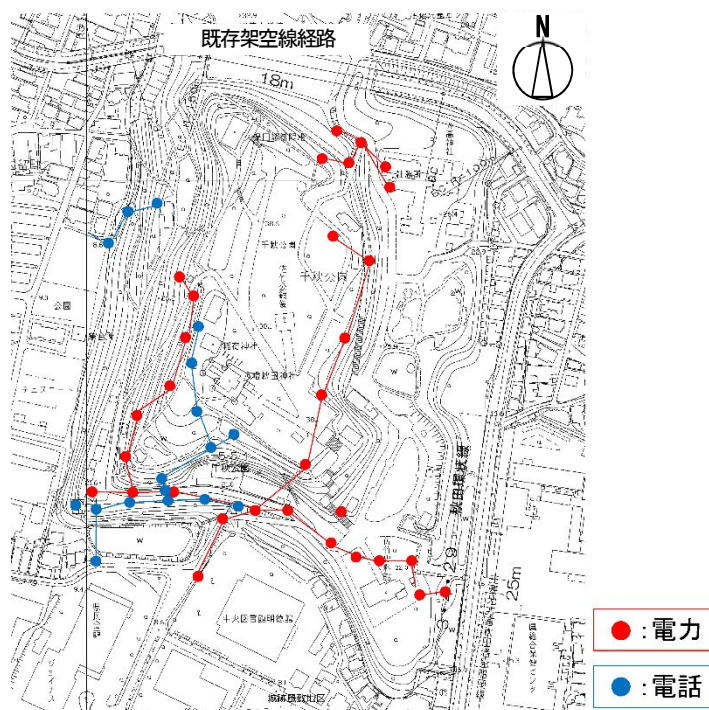
4 景観阻害要素（支障木・施設建造物等）の改善

(1) 景観眺望・阻害要因の改善

- 景観阻害要素となっている樹木や電線等を整理します。



園内の枯損木



(2) 私設建造物のデザインコントロール

- 公園内に立地する私設建造物など、景観と調和のとれたデザインへの誘導を図ります。

5 佐竹史料館の改築

(1) 佐竹史料館の改築

ア 整備方針

施設の老朽化や狭あい化が進む佐竹史料館を、郷土学習の推進や文化遺産の保存・公開の拠点として改築し、歴史を活かした観光振興にも寄与する施設として整備します。

イ 改築の位置

佐竹氏の歴史を学ぶ施設として、久保田城跡との一体感や秋田市中心市街地活性化基本計画（平成29年3月24日内閣総理大臣認定）における芸術文化ゾーンとの連携を図るため、千秋公園内に整備することとし、景観的な変更など史跡や名勝としての魅力や価値を損なわない場所であり、主要なアプローチである中土橋側と黒門側の2方向からのアクセスに優れた現在地において改築します。

ウ 施設配置と構造

千秋公園の拠点施設とするため、来園者から視認しやすい建物配置とします。

また、構造については、収蔵品管理等を考慮して鉄筋コンクリート造を基本とし、公園内の景観と調和したデザインとします。

(ア) 展示機能：常設展示室、企画展示室 等

実物史料中心の内容に加え、ジオラマ、映像等により、佐竹氏の歴史、久保田城の特長、城下町の成り立ちを分かりやすく紹介する展示とします。企画展は、ほかの博物館等と連携した展示とすることにより、リピーターを増やし集客力の高いものとします。

(イ) 収蔵機能：収蔵庫、収蔵庫前室、荷解こん包室 等

(ロ) 教育普及機能：講座や講演会を開催するための講堂

(ハ) 調査研究機能：資料調査室、書庫 等

(ニ) 管理機能：事務室、機械室、ボランティア活動スペース 等



6 久保田城御隅櫓の魅力向上

久保田城御隅櫓は、久保田城本丸北西の隅に位置していた見張り場と武器庫の役目を持った櫓を、市制100周年を記念し、展望室を加えて復元したものです。

(1) 久保田城御隅櫓の魅力向上

- 久保田城御隅櫓内の展示室では、現在、久保田城や秋田藩主佐竹氏について、歴史パネルなどにより紹介しておりますが、佐竹史料館の改築に合わせ、展示内容の見直しを行い、楽しみながら学べる展示を目指します。
- 展望室からの眺望は、久保田城御隅櫓の魅力の一つであり、生長により眺望阻害となる樹木については、伐採・せん定します。



久保田城御隅櫓



7 歴史フィールドミュージアム

久保田城の土塁と堀の構造や配置の妙は、ほかの城に優るとも劣らないものとなっています。久保田城御隅櫓や表門の復元により、歴史的な空間づくりが進められていますが、正確な歴史資料の不在により、復元できないものも多くあります。今後、黒門の整備、唐金橋跡の整備を進めるとともに、佐竹史料館の実物展示・模型展示と公園内の土塁や遺構を実際に屋外で観賞できる仕組みを整備し、公園全体を歴史フィールドミュージアムとして位置づけ、土塁と堀でできた久保田城の魅力を広く市民や観光客に伝えます。

(1) 歴史解説板の充実

- 改築する佐竹史料館と連携して、来館者が公園内の史跡を実際に確認できるようにQRコード等を歴史解説板に掲載し、これまでに調査・研究されてきた地図や絵図、歴史資料アーカイブをスマートフォン等に表示することを検討します。
- モデルコースを示したパンフレットや、公園内の史跡をスタンプラリー形式で回れるカードの作成などを検討します。
- 土塁と堀で構成されている久保田城の縄張りがわかる箇所に歴史解説板を整備します。特に、曲輪やます形など縄張りの妙をイラスト等で分かり易く解説します。



黒門のます形



黒門のます形を上部から



帯曲輪門跡



表門礎石 解説板



御物頭御番所 解説板



久保田城御隅櫓 解説板



標柱

基本方針③ 多様な目的への配慮、だれもが利用しやすい公園づくり

1 駐車場の拡充

現在の公園駐車場は狭く、公園利用者数に適した規模となっていないため、駐車場の増設に関する市民の要望が非常に多くなっています。このことから、城跡としての地形（土塁等）の保全を図りつつ、園内に駐車スペースを確保するため、現在、公園の東側にある児童遊園地を新たに駐車場として整備します。

なお、児童遊園地の機能は、胡月池北側への再配置を検討します。

(1) 駐車場の拡充

- 公園利用者の利用が多く、今後、公園管理事務所を移転・再整備する市民交流ゾーンの東側（バス専用駐車場の北側で、現在、児童遊園地として利用）に、新しく駐車場（有料）を整備します。なお、駐車場の出入口は、隣接するバス停との離隔に配慮します。
- 既存駐車場については、老朽化している機器等の再整備を行います。
- 大型バスについては、近隣に大型バス駐車場が不足していることから、既存のバス専用駐車場を現状のまま利用するものとし、より利活用されるようにPRに努めます。



駐車場



児童遊園地



バス専用駐車場



2 利用しやすい遊び空間の充実

現状では、子どもや親子連れの利用が少なく、市民からは子どもが遊べる遊具や遊びの空間の整備の要望が高まっています。現在、児童遊園地がある箇所を駐車場として整備した上で、児童遊園地の機能を胡月池北側に再配置し、新たな遊具の整備を行い、市民広場と併せて、子どもや親子連れが遊びやすい空間の充実を図ります。

(1) 児童遊園地の再配置

- 駐車場の施設と併せて、児童遊園地の機能を胡月池北側（馬場のモミ付近）に再配置します。また、遊具のデザインは城跡公園の景観に配慮したものとします。

(2) 自然や地形を活かした遊具の整備

- 千秋公園では、自然や地形の豊かさを活かした遊具のニーズが高いことから、アスレチック等の遊具整備を検討します。また、新たに整備する児童遊園地と駐車場の利用動線の強化を図るため、斜面地形を活かした滑り台やアスレチック遊具の整備を検討します。
- 水はけが悪く生育不良となっている市民広場は、土壌改良や排水改善を行い、快適な芝生とします。

3 アクセシ性・利便性に配慮した動線確保

新しく整備する駐車場（現在の児童遊園地）から、市民広場までの動線は、幅が狭くわかりづらい階段となっているため、利用動線の強化を図ります。

(1) 動線の整備や拡幅

- 動線の整備として、自然拠点（例：あやめ園周辺、公園管理事務所跡地）や歴史拠点（例：御出し書院）とを結ぶ動線（園路）を整備し、園内の周遊性を高めます。
- 動線の拡幅として、新設駐車場から市民広場へ接続する階段を拡幅し、公園へのアクセシ性を強化します。



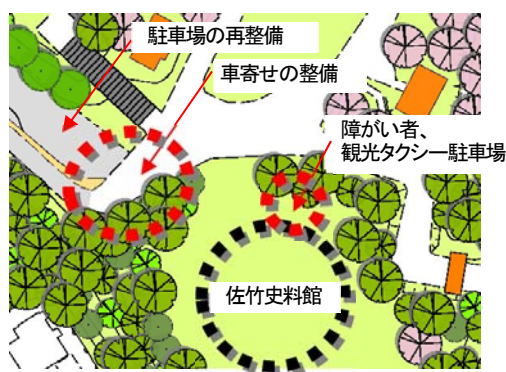
既存階段

(2) 二の丸エントランス整備（車寄せ・駐車場）

- 障がい者や高齢者、幼児連れの利用者のアクセス性に配慮し、二の丸への導入部分に車寄せを整備します。高齢者等を降ろした後は、新設駐車場等へ誘導する運用とします。また、公園のエントランスにふさわしい景観とします。
- アクセス性に配慮し、車寄せ横に障がい者用および観光タクシーの駐車場を整備します。



市民広場 南側



(3) 二の丸から本丸のアクセス性向上

- 障がい者、高齢者等の本丸へのアクセス性向上のため、本丸北側に障がい者等駐車場を確保します。



北側斜路



(4) 動線のユニバーサル化（階段・スロープ手すり整備）

- 新設駐車場の西側斜面階段は、ユニバーサルデザインに配慮し、手すりを整備するとともに幅員を拡幅します。
- 園内の階段やスロープは、「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン」（平成24年3月 国土交通省）に基づき、手すりを整備します。



西側斜面階段



4 案内機能の強化

(1) 総合案内板、誘導標識の見直し

- 外国人利用に配慮し、近年需要が高まっている総合案内板の多言語表記や内容を見直します。
- 整備時期の違いによる様々なデザインの総合案内板は、改修の際に統一したデザイン方針に基づき整備します。
- 公園アプローチ動線や回遊性を考慮した案内標識について、周辺施設と連携を図りながら整備します。
- スマートフォンやタブレット等を活用した案内システムの導入を検討します。



総合案内板(市民広場)



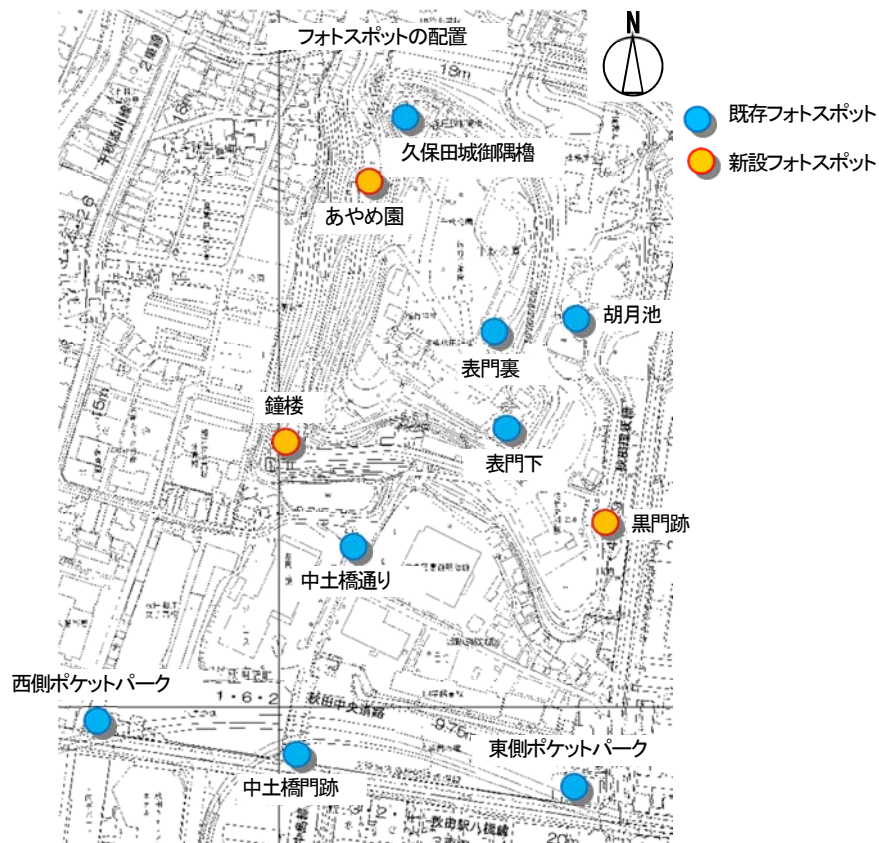
総合案内板(大坂入口)



誘導標識(園内各所)

(2) 新たなフォトスポットの設定・広報

- 既存のフォトスポットをインターネット、SNS等を通じて広報します。
- 再整備される黒門や鐘楼、樹林地からの眺めの良い箇所を新たなフォトスポットとして設定します。



5 休憩施設およびトイレの見直し・改修

(1) ベンチ、四阿の見直し・改修

- 老朽化しているベンチや四阿について、維持管理面に配慮し、耐久性の高い構造で改修します。



四阿(本丸)



四阿(西側樹林地)



ベンチ(園内各所)

(2) トイレ配置の見直し・改修

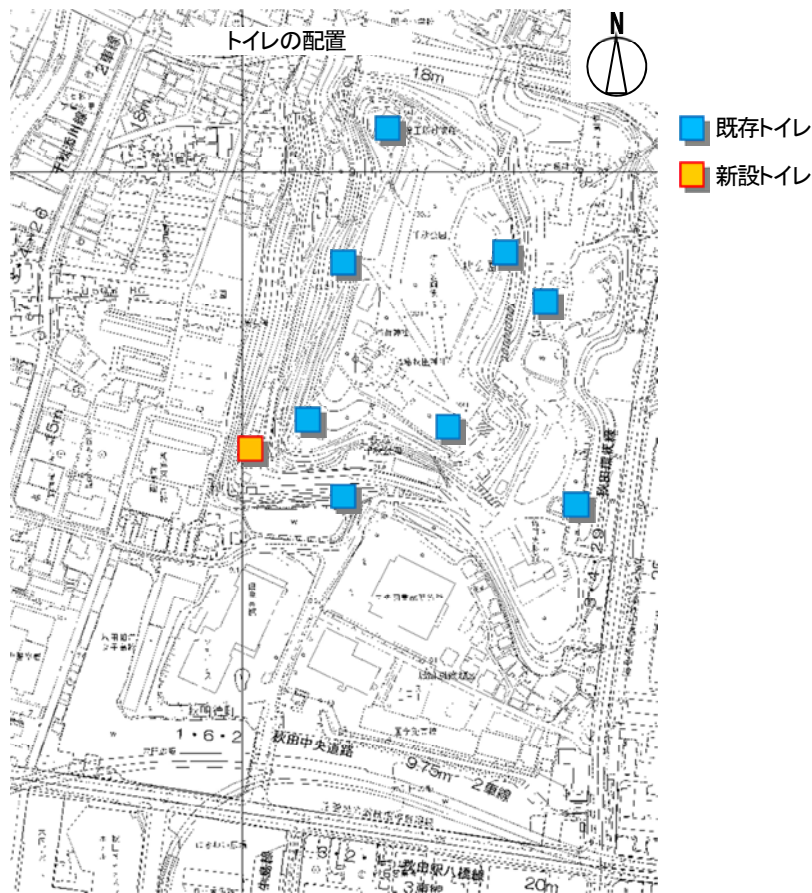
- 老朽化しているトイレや、バリアフリーに対応していないトイレを改修します。
- 改修と併せて、景観阻害要素となっているトイレの配置を見直します。
- 公園利用に配慮し、自然ゾーンの拠点となる公園管理事務所跡地にトイレを新設します。



トイレ(本丸)



トイレ(馬場のモミ脇)



6 便益施設の魅力向上

(1) 売店および私設店舗の魅力向上

- 公園利用ニーズに合わせ販売商品の見直しやPR等により、魅力向上に努めます。
- カフェやレストランなど飲食施設の整備は市民ニーズが高いため、私設店舗と協力して、市民広場へのオープンカフェ、ケータリング等を検討します。



売店(市民広場)

基本方針④ 中心市街地との連携、人々の交流拠点づくり

1 中心市街地にある他施設との連携

(1) 周辺駐車場等の利活用の促進

- 公園内に不足する駐車台数を補うため、中心市街地駐車場マップなどを活用し、周辺にあるエリアなかいかい駐車場などの利活用や新設される県・市連携文化施設の駐車場との連携を図ります。



中心市街地駐車場マップ

(2) 中心市街地と連携したイベントへの協力

- 秋田市中心市街地活性化基本計画（平成29年3月24日内閣総理大臣認定）で事業推進のためのゾーニングとして示された、芸術文化ゾーン内にある県・市連携文化施設等での芸術文化イベントなど、中心市街地で開催されるイベントに協力（広告や会場としての利用等）していきます。

(3) 景観（建物）との調和

- 新設される県・市連携文化施設の建築物の外観は、公園の景観と調和のとれたデザインとするよう関係機関と調整を図ります。

2 公園エントランスの改修

(1) エントランスの整備（中土橋通り、松下門跡、東側ポケットパーク、黒門跡）

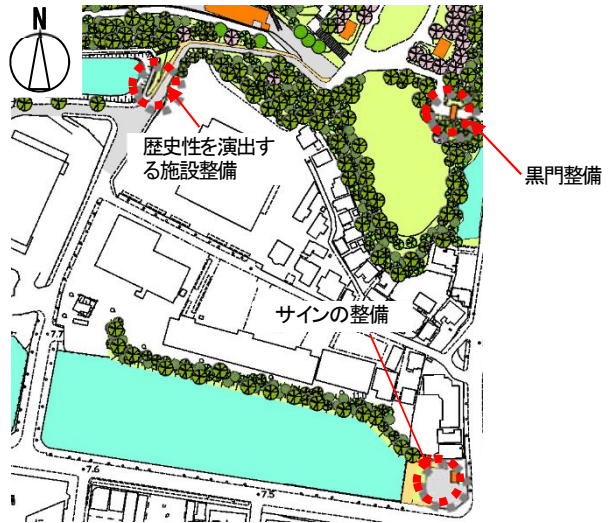
- エントランスとしての機能を強化するため、中土橋通りと大坂の境に歴史を演出する門をイメージした施設を整備します。
- JR秋田駅側の入口に位置する東側ポケットパークに、千秋公園（久保田城）であることを示すとともに、中土橋や黒門へと誘導するサインを整備します。
- かつての正式な登城ルートとして、エントランス機能の強化と歴史的価値の向上を図るため、黒門と唐金橋跡の整備を行います。



大坂付近



黒門跡



(2) 冬季の利用促進（中土橋から大坂、黒門跡の融雪化）

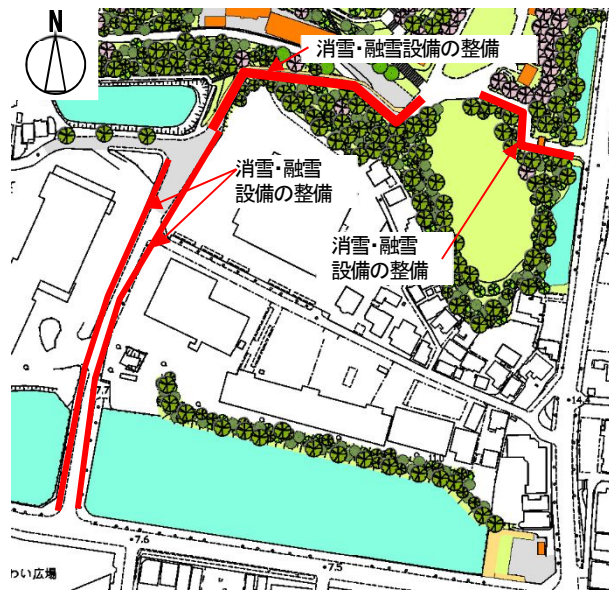
- 大坂および唐金橋跡から黒門、市民広場へのルートに、冬季の積雪・凍結時にも公園へアクセスしやすいように消雪・融雪設備を整備します。併せて、大坂周辺の駐車場（コインパーキング）も冬季利用できるように改修を行います。



大坂



黒門



(3) 内堀周辺の景観整備

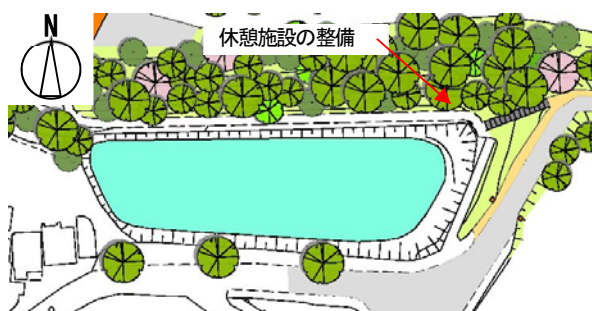
- 内堀周辺を公園エントランスにふさわしい景観とするため、園路、階段等の施設を再整備します。また、トイレを撤去し、水景を楽しむことができ、水辺の添景ともなる休憩施設を整備します。



内堀



総合案内板とトイレ(大坂入口)



園路、階段の再整備、休憩施設の整備を実施し、公園エントランスにふさわしい景観とします。

3 親水空間の充実

外堀（大手門の堀、穴門の堀）は、千秋公園だけでなく中心市街地の景観を特徴づける親水空間となっています。水質浄化対策や東側・西側のポケットパークの整備を実施しており、ハスの開花時期には多くの市民や観光客を楽しませています。

秋田駅からのアクセス拠点として東側ポケットパークを位置づけ、中土橋通りへのアクセス機能の強化とハス観賞場所としての遊歩道を整備します。

(1) ポケットパーク（親水広場）からつながる遊歩道（デッキ）の整備

- 大手門の堀内に東側ポケットパークから中土橋門跡へとつながる遊歩道（デッキ）を整備し、歩行者動線を強化するとともにハスを観賞できる場とします。
- 遊歩道（デッキ）は、周辺の景観と調和のとれたデザインとします。

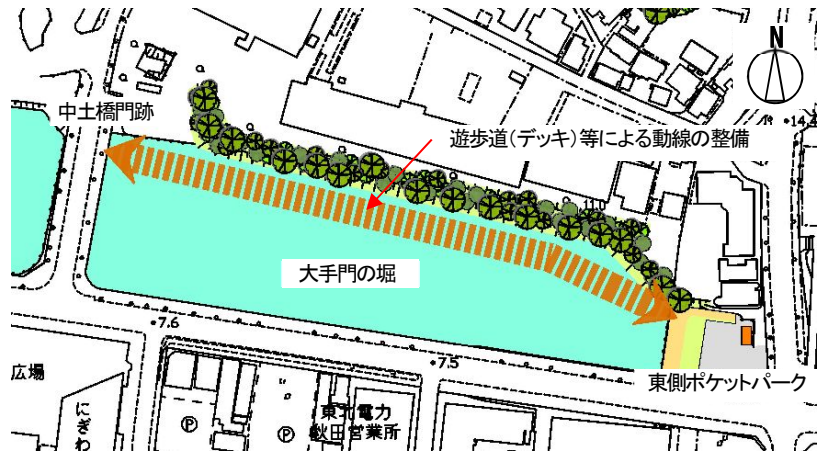


鷹匠町を望む

出典:写真集秋田(今村義孝編)



東側ポケットパーク



(2) ハスの有効活用

- ハスの花たぐいの提供など、市民に親しまれるものとして有効活用します。

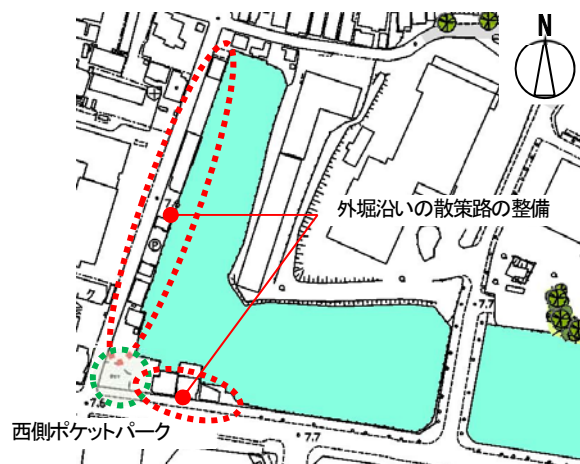
4 外堀周辺の景観の向上

(1) 外堀沿いの散策路の整備

- 関係者の理解を得ながら、外堀沿いの住宅および商店を移転し、西側ポケットパークから連続する散策路を整備し、外堀周辺の景観を向上させます。



外堀周辺



外堀沿いの住宅および商店を移転し、外堀沿いに散策路を整備します。

基本方針⑤ 公民連携による公園の運営マネジメントの推進

1 公園運営・維持管理機能の強化

(1) 公園管理事務所の移転・再整備

公園事務所の建物は、老朽化の進行と立地場所の状況から、適正な維持管理や多様な公園ニーズに対応することが困難となっています。公園の利用者が多く、維持管理箇所が多い市民広場、胡月池の北側に移転・再整備することにより、公園運営・維持管理機能の強化を図ります。

- 老朽化した公園管理事務所を胡月池北側に移転・再整備します。
- 公園利用者との交錯が少ない北側からの動線を管理車両動線とします。
- 千秋公園内の自然や緑化に関する情報を発信する機能を付属させます。



(2) 公民連携・公公連携による管理体制の強化

- 公園管理運営については、NPOおよびボランティア組織等との協働・連携を図ります。
- 公園内の施設については、史跡や環境など管理する分野が多岐にわたることから、庁内の関連部署と連携を図りながら管理体制を強化します。
- 指定管理者制度、Park-PFI制度等の民間活力導入検討に伴う将来的な公園管理運営に携わる関係者の増加や複雑化を見越し、行政・民間事業者・市民ボランティア等多様な関係者間の調整・協働を目的とした連絡協議会（仮）の設置を検討します。

久保田城址歴史案内ボランティアの会



地区名	秋田市
概要・内容	佐竹史料館および、久保田城（千秋公園）の歴史的経緯、地誌、秋田の発展などを中心に案内。受付時間 9:00～15:30 ※希望日の2カ月前から7日前までに予約
所要時間	ご希望の時間内でご案内いたします。
料金	無料佐竹史料館入館料：一般100円 高校生以下無料 久保田城入館料：一般100円 高校生以下無料
問合せ先	佐竹史料館 TEL018-832-7892 FAX018-832-9524 ※2ヶ月前から1週間前までに電話かFAXで要予約
関連URL	http://www.city.akita.jp/city/ed/st/


NPO 秋田千秋はすの会

私たちの団体紹介・活動内容

私たちは千秋公園のお庭の「蓮」を活用した特色のあるイベントを企画・実施することで中心市街地の活性化を図ることを目的に活動しています。また「蓮」の活用法について研究し、その内容を広く伝える活動に取り組んでいます。

- ・毎年夏に「蓮フェスタ」を開催
- ・蓮をまるごと使った作品制作・展示
- ・蓮の果実を活用した花飾り制作講習会
- ・蓮についての講演・学習会等を開催しています。

ひとことPR
「蓮をまるごと楽しむ」をモットーに楽しく活動しています。
また、一緒に活動して頂ける新規会員を募集しています。興味のある方はお気軽にお問い合わせください。



代表者 鈴木 美保子
住 所 〒010-0003 秋田市東通8丁目1-88
連絡先 ☎018-831-5373

(平成28年7月24日作成)

園内で活動するNPO・ボランティア団体

2 民間活力の導入

中心市街地や芸術文化施設との相互利用を促し、人々の交流の拠点としての機能を充実させていくためには、市民の多様なニーズに応え、特に要望の多い駐車場や飲食施設の整備、イベントの開催等柔軟な活用に向けた運用改善など、様々な方策を取っていく必要があります。

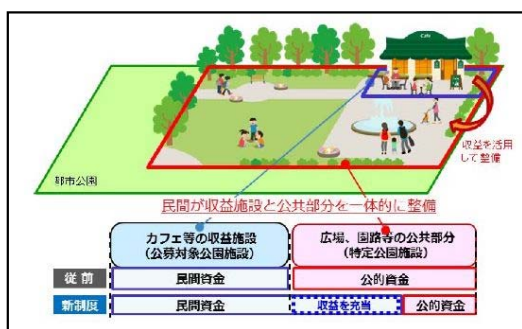
千秋公園では、既に売店や私設店舗などが立地していますが、老朽化や市民ニーズとの乖離が見られ、将来にわたる利用促進に当たっては改善が必要と考えられます。

一方で、公共投資の縮減化が必要な昨今の現状を踏まえると、財政・人材の面から、これまでと同様の公共の努力のみでの施設整備・運用には限界があります。今後、指定管理者制度の導入、都市公園法に基づく公募設置管理制度（Park-PFI）や設置管理許可などの様々な公民連携の手法の導入により、民間資金やノウハウを活用した公園整備および維持管理を積極的に推進することで、公園全体の持続可能な魅力向上を図ります。

(1) 民間活力による収益施設の導入検討（Park-PFI等）

- 飲食店、売店、駐車場等の市民ニーズの高い施設について、民間活力の導入（指定管理者制度、Park-PFI等）による施設整備・維持管理運営の実施を検討します。民間活力の導入に当たっては、既存の売店、私設店舗の有効活用や機能の拡大、周辺園地との一体的な維持管理との一括委託など、民間事業者の参入を促進するべく多様な手法を視野に検討を進めます。

また、Park-PFIなど施設整備を伴う可能性のある手法の導入に当たっては、文化財保護との両立を念頭において進めます。



Park-PFIのイメージ図

図出典：
都市公園の質の向上に向けたPark-PFI活用ガイドライン
(平成29年 国土交通省都市局公園緑地・景観課)



他地域事例：愛知県名古屋市長城公園・tonarino
(公園内に設置された民設民営の複合施設と広場の一体整備事業)

(2) 多様なソフト事業（イベント開催等）の推進

- 千秋公園の情緒あふれる歴史的な空間（本丸跡周辺）などを活かした、歴史的・芸術文化的なイベントの開催を推進します。
- イベントの開催には、中心市街地の商店街をはじめとした民間企業などと連携した出店や催し物など、魅力的な公園づくりを推進します。
- 中心市街地の主要拠点の一つとして、隣接する「エリアなかいち」等と連携した利用促進および観光客誘致を推進します。
- 観光客誘致を目的としたソフト事業の一つとして、外国人観光客にも知名度が高い秋田犬等の活用を検討します。

(3) 柔軟な運用による公園の利活用の誘致

- 公園利用の様々なニーズに対応し利用を促進するため、自然観察会、歴史散策会、写真・映像撮影会、スポーツイベント等の誘致に向け、公園の財産である文化財および自然環境の保護と両立可能なルール等の構築を進めます。
- 芸術文化に関するイベントについて、秋田市都市公園条例に基づく公園内行為許可の運用基準の改正（使用料の減免）などを検討し、積極的な誘致を行います。

(4) さくらファンドの情報発信と充実

- 「千秋公園さくら再生基本計画」(平成22年度)の理念に基づく「千秋公園さくらファンド」の情報発信を継続するとともに、再生のための活動を充実していきます。
- ファンド参加者が継続的な関わりの意識を維持し、公園への愛着と利用の促進に繋がるよう、現在のファンド(寄附)体制を見直しつつ拡大を進めます。

さくらファンドの魅力向上のための改善例(提案)	
ファンドメニューの多様化	・生育基盤の改善など基礎的作業に資する従来通りの寄附形式のほか、限定特別枠として更新木植樹時の里親・オーナー制度の導入(プレート設置、植樹祭の実施など)
税優遇以外のリターン提供による個人参加者の誘致	・伐採木を材料とした記念品の提供など
情報発信の強化	・年度ごとの整備地の状況や全体の進捗状況の報告 ・桜まつりなど季節イベントと連動した情報発信の重点化 ・年度ごとの募集時期の限定によるPRの集中強化

3 情報発信・発信拠点の充実

(1) 園内窓口・情報発信の拠点整備（公園管理事務所）

- 新たに整備する公園管理事務所を、千秋公園内の開花状況や自然観察など、主に公園の自然や花に関する情報発信の主要拠点として位置づけます。
- 花木の見頃時期（さくら・つつじ・アヤメ・ハス・秋の紅葉等）を重点的に、インターネットや園内掲示等を活用した花見頃情報の提供を積極的に実施し、集客力と利便性の向上に努めます。
- ベビーカー・電動車いすの貸出し、AED設置、授乳室の配置など、バリアフリーや緊急時への対応強化を検討します。



季節の鑑賞情報のPR
(国営ひたち海浜公園事例)



公園内での花情報提供事例
(国営武蔵丘陵森林公園事例)

(2) 公園ホームページや公園マップの見直し

- 公園ホームページや公園マップ、既存のQRコードによる情報提供体制を見直します。
- 案内板等へのQRコードの掲載は、道案内のほかに歴史や季節の花など多様な情報提供が行える体制を整えます。
- 民間事業者と連携したQRコード情報の活用を行い、スタンプラリー等多様なイベント・観光事業へ活用できる運営方法を検討します。
- インバウンド対応の一環として、公園ホームページやパンフレット、QRコードを活用した解説標識類の多言語対応を実施します。また、多言語対応実施においては、秋田市観光・イベント情報総合サイト「アキタッチ^{プラス}」の多言語版サイトの活用も検討します。



方向指示サインに敷設されたQRコード

4 公園施設の長寿命化と安全性の確保

(1) 公園施設の長寿命化と計画的な修繕・更新

- 維持管理・修繕コスト軽減のために、公園施設の計画的な修繕・更新をしていきます。

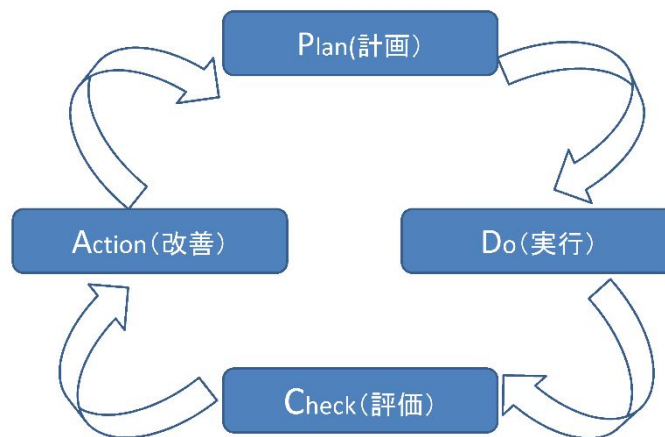
(2) 防災機能の充実と治安・防犯に対応した施設管理

- 市内中心部に位置する広域避難場所として、オープンスペースの確保や防災機能に配慮した施設（かまどベンチ、ソーラー照明灯の導入等）の整備に努めます。
- トイレ等犯罪の温床となりやすい施設の配置の見直しや改修の際には、防犯性・利便性の高い主要動線上への配置とします。

5 進行管理の見える化の実践

(1) 再整備計画のPDCAサイクル

- 改定された再整備計画について、PDCAサイクル※に基づき、進行管理を行います。
- 連絡協議会（仮）での年間報告、意見交換とフィードバック状況の報告など、関係者に開かれた進行管理を実践します。



PDCAサイクル概念図

※計画等の管理手法の一つで、P(Plan:計画)→D(Do:実行)→C(Check:評価)→A(Action:改善)をサイクルとして繰り返しながら進めることで、継続的に改善しつつ計画を実行する手法です。

(2) 計画の見直し

- 概ね5年ごとに、各施策について実施状況を基に検証し、必要に応じて計画の見直しを行うこととします。